

令和7年度事業報告

長野県看護大学同窓会 鈴風会

【令和7年度基本方針】

1. 会員同士のネットワーク強化
2. 同窓会活動の充実

【活動内容】

1. 会員同士のネットワーク強化に関すること

◎学園祭での同窓会活動の発信

- ・ 在学生へ鈴風会の活動を周知することを目的に、学園祭パンフレットへの広告掲載および展示ブースへの出展を行う

⇒展示ブースでは「卒業生と話してみよう」をテーマに90分間の企画を行い、21名の来場があった。来場者からは、就職や今後の進路に関する相談が寄せられ、肯定的な意見が多く聞かれた。また、パンフレットへの広告掲載に加え、これまでの同窓会活動について、展示ブースにて紹介した。大学教員で組織する学生委員会と共催し、第28回鈴風祭にて「ホームカミングデー」企画を実施した。来場した同窓会員や同窓会未入会の卒業生に対して同窓会活動の紹介を行うと共に、幅広い年代の会員交流が行える場を設けた。また、同窓生および卒業生が楽しめる大学に関するクイズ等の企画を実施し、参加者全員に大学名入りクリアファイルを贈呈した。

◎ホームページの活用

- ・ 活動の様子を伝えることで、同窓会に関心を持つ会員が増え、鈴風会の活動への参加者が増加すること目指し、ホームページによる情報発信を継続する。
- ・ ホームページをさらに活用する方法を検討する。
- ・ 卒業生の現状についての原稿を引き続き募集し、卒業生の活躍の様子を周知する。

⇒今年度、2月2名の卒業生の原稿をホームページへ掲載した。引き続き卒業生への原稿依頼を行う必要があることから、執行部メンバーを通じて卒業後、おおむね5年以上経過した卒業生へ原稿依頼を行っていく。寄稿次第、随時ホームページへ掲載予定である。

◎会員の参加しやすい形の検討

- ・ 同窓会活動に関する意見募集の活性化や、同窓会活動への参加者の増加、速やかな登録情報変更のため、会員へのホームページの周知を引き続き推進する。
- ・ 同窓会集会の他、会員の情報交換の場となる企画や方法を検討する。

⇒昨年に引き続き、会員や準会員、在学生への配布物にはホームページのURLとQRコードを載せることで、登録情報変更手続きへのアクセスの簡便化を図った。また、住所不明会員が、円滑に登録できるように、卒業生の学年LINEにgoogleフォームを送信した。18名より返信があり、うち7名が住所不明の方だった。未入会および住所不明の卒業生については、今後も学園祭企画や同窓会ホームページ上で入会・登録変更の案内を継続していく。

2. 同窓会活動の充実に関すること

◎入会者増加のための検討

- ・ 在学期間中に入会案内方法の検討をすすめ、入会者の増加につなげる。
- ・ 入学時の加入率の拡大を図る方法を検討する。
- ・ 昨年度から開始した鈴風チケット（当大学の生協のみで利用できる金券）の配布を継続する。

⇒今年度は学部全学年の準会員に対して鈴風チケットの配布を行った。10月時点で、半数以上のチケットが使われていない状態であったため、利用促進のメールを配信した。2月集計時の使用状況は、66.8%と利用者増加の成果が見られた。在学期間中および卒業後の入会促進方法は引き続き検討課題である。

◎活動内容の検討

・ 会員数増加による通知等の準備作業の増大に対する効率化や作業委託等について検討する。
⇒昨年度に引き続き、総会通知などの準備作業の一部を外部委託とした。また、総会はがきの印刷業務に関して作業負担が増大していたことから、今年度より外部委託とした。今後の作業委託については、依頼前に執行部内で十分に相談のうえ進めていく予定である。

◎同窓会活動に関する意見募集

・ 同窓会活動の充実を図るため、通知やホームページなどを通して、同窓会活動に対する会員の意見を募集する機会を引き続き設ける。
⇒今年度、総会通知はがきに添付した議案用のQRコードにて、同窓会パーティーについての質問項目を設けた。会員の要望に応じて、今後の同窓会パーティーや他企画に反映していく。

◎会員サービスの検討及び実施

・ できるだけ多くの会員の参加が得られるよう、同窓会パーティーを企画・開催する。もしくは5類に移行はしたが、新型コロナウイルス感染症予防の観点から別の企画を検討する。
・ 卒業・修了時の会員への記念品贈呈を継続する。
⇒同窓会員が交流できる企画について、同窓会パーティーを企画・開催する方法と、学園祭初日に開催される「ホームカミングデー」を大学と共催する方法の両面から検討を行った。その結果、学園祭に会場し交流ができるホームカミングデーを共催した。今年度の企画開催時にあたっては、多くの会員の参加が見込めるよう、卒業生の学年LINEを活用し、「ホームカミングデー」開催の案内を発信した。当日の参加者は16名であり、参加者からは肯定的な意見が得られた。また、新規会員の入会促進および母校への還元を目的として、お菓子や飲み物、看護大学のロゴ入りクリアファイルを用意するとともに、当日入会手続きが可能なブースを設置した。

◎母校との連携

・ 大学からの本会に対する要請に柔軟に対応する。
・ 母校の発展に寄与できるよう、大学側の意向も踏まえながら大学への貢献事業を行う。
⇒大学への貢献事業として今年度は図書寄贈を予定していたが、大学教員で組織する学生委員会との共催で実施した「ホームカミングデー」に注力し貢献事業としたため、図書寄贈に関しては来年度事業として検討していく。引き続き、大学の要請、意向を踏まえながら貢献事業を継続していく。